



TITLE:

歐米再遊日誌(3)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 歐米再遊日誌(3). 天界 1938, 19(212): 52-55

ISSUE DATE:

1938-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167757>

RIGHT:



## 歐米再遊日誌 (3)

理學博士 山本 一 清

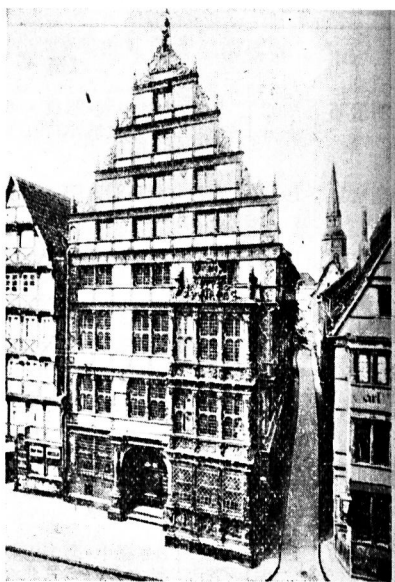
7月24日 (日曜日) 晴れ。

今日から一週間、中央ドイツ周遊の計画により、朝7時56分ハンブルグ驛發、9時半ブレメン着。此所は曾遊の地で、地理は心得てゐる。11時ドーム廣場まで來て、丁度、堂内の禮拜式に出席した。それから百年前のアマチュア天文家オルバースの記念碑を見、13時から美術館に入り、名畫を多く參觀した。

15時24分ブレメン發、18時23分ハノバ1着。驛前のライニシヤ・ホーフに宿を定め、後、散歩して、ゴセリデ廣場に近いプラネトリウムを訪れたが、此所は毎水曜16時に公開することになつてゐるので、門前から引き返し、C. V. J. M. ホスピツ、ライプニツ館、舊ライトハウス、マルクト・キルヘ等の外觀を見た。

7月25日 (月曜日) 晴れ。

朝7時5分ハノバ1驛發。同55分ゲチンゲン驛に下車。バトンホフ街からゼーリダ街に出で、アウデトリウム、ライトハウス、大學天文臺、ガウスとエーベルの記念像、エーラー像、ビスマルク小屋、



ハノバ1のライプニツの舊家

ヒンデンブルグ城壁等を見た。夏休中なので、大學生たちは居ず、市街は淋しい。

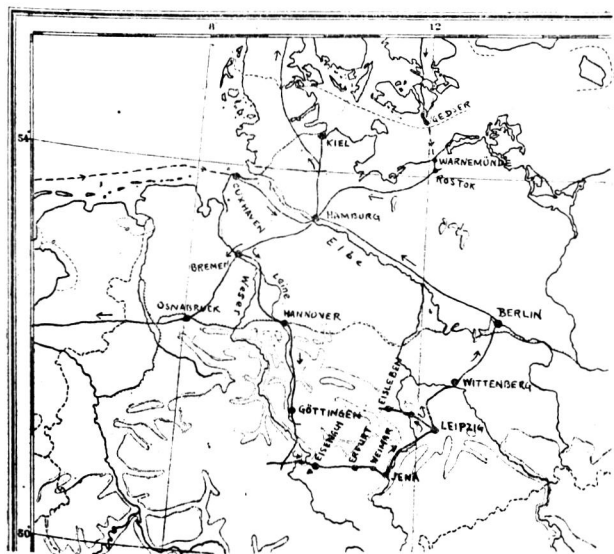
12時25分ゲチンゲン發、ペブラで乗り換へ、14時半にアイゼナハ着。クロンプリンツ・ホテルに入り、間もなく、バスで郊外のワルトブルグ城に登る。四百年前ルーテルが幽閉されて、聖書を翻譯した所。其の他にも傳説は多く、チウ

リンゲン侯の古城として實に豫想以上の立派なものであつた。

18時下山し、市街を散歩した。

7月26日(火曜日) 晴れ。

朝7時アイゼナハ發、同46分エルフルト驛に下車。バインホフ街から、アン

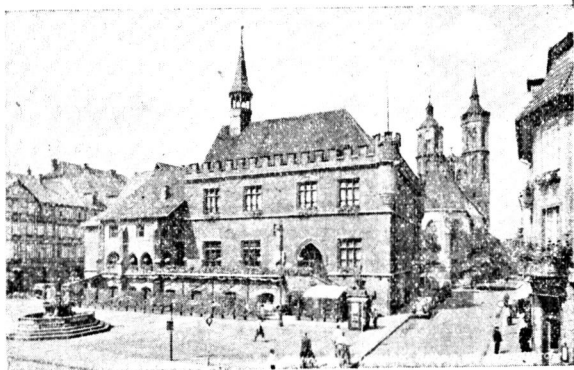


ドイツ國內の旅行經路

ガ1街、ルーテル像、ヨハネ街、マルテン院(ルーテルの居た僧院)を經、魚市場では市廳と其の内部の有名な壁畫を見、フリードリヒ廣場から、ドーム及びセベリ教會を見、ブレダ教會、政廳(ナポレオンの宿つた所)を經て、停車場に歸り、11

時40分發、12時にはワイマール着、ホーヘンツォーリン・ホテルに入る。

此所は昔しからザクセン侯の住都であり、又アウグスト侯以來は有名な藝術の都であるが、大戰後は新ドイツの共和議會を開いた所で、現在、ヒトラー廣場を始め市内は所々に改良の大工事中である。自分はソフエン街、ビュルガ1街等を経て、中央劇場の側からシラー街をぬ



ゲチングンの市廳と廣場

けて、ゲ1テ館に至り、3時間を費して詩人ゲ1テの記念博物館を見た。

7月27日(水曜日) 晴れ。

朝8時17分、ワイマ1驛發、同48分にイエナ市の「西停車場」着。直ちにツア



イエナ市のツァイス工場

イス會社を訪ね、レオナルド、  
エルネル、キンデイシ等の諸氏  
に會ひ、11時から會社のプラネ  
タリウムを見た。新しい太陽系  
軌道の映寫装置は大變に良かつ  
た。ルーテルが宿つたといふシ  
ザルツァ・ペーレン・ホテルで午  
餐を饗せられ、其の後、ルーテ

ル室、アベ像、大學、シラ1館を案内され、大學天文臺ではジ1デントフ教授  
に會ひ、天空光度計を見せられた。

18時33分、見送られて、ザ1ル停車場より出發、ナウムブルグで乗りかへ、  
20時46分ライプチヒ着。コンチネンタル・ホテルに入る。

7月28日(木曜日) 晴れ。

朝の間、暫く市街を散歩し、10時25分發の列車に乗り、ハレで乗りかへ、11  
時50分アイスレーベン着。此所はルーテル(\*1483, +1546)の生れた町で、ル

ーテルに因むものが多い。停車場から“ヒトラ1街道”を経て、市街の中央部  
に入り、ルーテ  
ルの生れた家、  
受洗したペー・  
パウ教会、マ  
ルクト廣場の肖  
像、ルーテルの  
死去した家、説  
教したアンドレ  
ヤス教会等々。  
一巡して、15時



ライプチヒの停車場前の廣場

55分元の停車場から、又、ハレ經由、18時ライブチヒに歸つた。

7月29日(金曜日) 曇。

朝8時21分ライブチヒ發、9時10分キテンベルグ着。此所も“ルーテルの町”である。先づ、停車場通りの櫛の大樹は、ルーテルが法王から來た破門狀を焼いた所であり、コレゲ通りのルーテル館は夥しい記念物を集めてゐるので、之れを見るのに3時間を費した。(此の時間、外は雨であつた。)それから、メランヒトン館の前を過ぎ、マルクト廣場、市教會を見、次で、市の西端にある城内教會の内外を見た。此の教會の扉にはルーテルが發表した95ヶ條の文が鐵板に刻りつけてある。又、中にはルーテルとメランヒトンとが葬つてある。



アイスレーベンの  
ルーテル誕生の家

16時20分キテンベルグ發、18時ベルリンのアンハルト停車場着。ミテル街のエングリシヤ・ホーフに入つた。

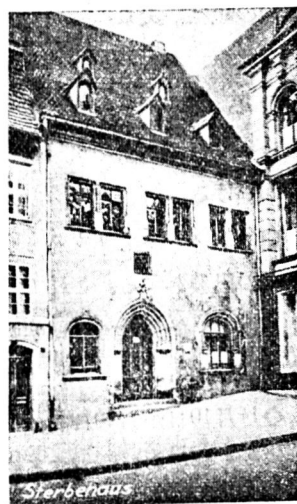
7月30日(土曜日) 晴。

朝9時、トマス・クク旅行會社でスエーデン行の切符を買ひ、いろいろの準備をした。午後にはフリーデナウのアスカニヤ會社へ行つたが、時刻が遅かつたので、主任のローゼンハーゲン博士にはストックホルムで會ふこととし、辭去。

7月31日(日曜日)

朝7時56分ベルリン(レーアタ停車場)發、急行で、11時25分ハンブルグ着、元のライクスホーフ・ホテルに入つた。

15時、電車でハーゲンベクの大動物園を見に行つた。なるほど大規模のものではあるが、動物の取り扱い方などは、豫想してゐたほどのものでは無かつた。(つゞく)



ルーテルの死んだ家